いる。前向きに検討していきたい。

問 **県道「和仁～山鹿線」板楠交差点の早期改修について。**

この交差点には、現在点滅信号が設置されていますが大型ダンプカー、平山の温泉客、ＪＡ玉名三加和供給センターもあり、交通量も非常に多く事故も多発している危険箇所であります。以前バイパス計画もありましたが諸事情により20年近く凍結状態にあります。まずは、現道を１００ｍほど改良し信号機の設置が必要と思うがいかがお考えか。

答 板楠交差点については、今年2月に地元関係者より要望書が提出されており、私自身も現地を見に行き幅員狭小であり見通しが悪く、交通量も多く危険箇所であると認識している。しかしこの交差点はバイパス工法で造られており、現道改修での信号機設置は無理と思われるが、速急な対応のためには、県や警察等と協議をかさね現道改良が近みちであろうと思う。速急に要望等行っていく。地元の熱意で特に用地等の交渉にご協力をお願いしたい。

農業問題について

問 **町の農業振興を計る上で、農業従事者の高齢化、後継者不足、又将来の農業を考えた場合、いまだ未整備の「大田黒、上板楠、和仁地区の一部」ほ場整備の推進を計るべきと思うがどうお考えか。又中山間地域総合整備事業での広域連携等の取り組みはどうなのか。**

答 ほ場整備についても、中山間地域総合整備事業の中で取り組んで行くわけで、また、広域連携についても同用であり南関町・和水町、県の担当者、町長も含め会議や、勉強会を数回行って来ている。これから協議を重ね、説明会なり、アンケート調査など要望等取りまとめた上で19年度において基本計画策定20年度に南関町と事業計画協議を行い、21年度に国、県等とのヒアリング、22年度採択、事業実施完了まで5・6年を目度に現時点においては進めていく考えである。

問 **認定農業者への町単独の補助事業の取りまとめもあったが、具体的施策を伺う。**

答 補助事業に関しては、「和水町担い手育成総合支援協議会」の中で協議を重ね決定した所であります。具体的には、機械施設の導入に対しては15％の補助を、ただコンバイン、田植機等に対しては、個人的補助はひかえ集落営農に対しては50％の補助を計画し予算計上している。又「防油堤、電気牧柵」については、認定農業者以外の方にも15％以内、「上限2万円」の補助を行う。

有害鳥獣（イノシシ）被害対策について

問 **近年のイノシシ被害については、農作物等に、甚大な被害が生じている、十町、和仁地区には、深刻な問題です。今年度の被害状況、また、狩猟期間中の捕獲、駆除等状況は。また、新年度の町の対策について伺う。**

答 被害状況についての把握はむずかしい。捕獲状況は、菊水地区0頭、三加和地区で51頭です。三加和地区においては年間を通して有害鳥獣駆除を行っている。新年度の対策として、猟友会に対し、30万円上乗せし60万円とし、上乗せ分は、捕獲イノシシ一頭に5千円、土鳩、カラス一羽2００円の実績に応じての委託料を支払う。他、電牧柵に対しては農業補助で15％、上限2万円の補助を行う。

捕獲されたイノシシ

髙巣 泰廣議員

産業廃棄物最終処分場問題について

問 **町長は安全安心な住み良い町づくりを提唱、又首長として住民の安全と健康を守る責務がある。住民を守る立場の町長は、県の一方的な対応をどの様に理解しておられるのか、町長の基本的な考え及び今後の取り組み対応について伺う。また、養豚場の件の対応について伺いたい。**

答 平成18年3月27日、県は南関町米田に建設候補地と発表以来、下流域の内田、長小田地区住民の方々に大変心配をかけ対策協議会を立ち上げ、下流域の生活と安全を守ることの重大さを深く受けとめている。自然破壊、地下水汚染、農業用水汚染・悪臭、交通量増大による交通事故。騒音問題等将来に向けての心配全く同様の感じを受けている。また、下流域内田・長小田地域に対して、県は配慮がなされるべきと思う。今後地域の皆さんの気持ちを和水町全体の問題として県に対しては取り組んでいきます。合わせて、住民と一緒になり取り組むべき道を定めて取り組みます。

養豚農場の件は行政区は玉名市、搬入路は南関町、排水は和水町という状況下、現在玉名市で対応されていますので状況を見極めながら、玉名市と協議し取り組んでいきます。

工業団地造成事業に関する問題について

問 **工業団地造成事業の一部未登記の土地も見られるが、莫大な資金を投入した造成事業である、現状と今後の対応方策について町長の所見を伺いたい。**

さらには、土砂流出による二次災害発生の危険性が有り梅雨前の事前対策を急ぐべきである。

答 工業用地造成事業は平成6年、土地開発公社より購入し特別会計としている。

平成13年に3万4、333㎡を売却し現在の面積を有している。未登記が11筆ありますが3月末迄には5筆ぐらいは完了する予定の状況です。

平成8年に1、300万円を有して、測量・基本計画を策定し9万3、000㎡の工業用地を造成する造成費が9億から14億を要するとのものであった。

現時点では、非常に厳しい状況で計画が立たない状況下にありますが、まずは取付道路等の整備を図りつつ、良い活用策を考えて努力していきます。

指摘の水路、道路等の崩落等の可能性がある箇所は早急に応急対応を講じてまいります。

町立病院の活性化方策について

問 **町立病院の前身は大正3年、江田村外三村伝染病院組合の創設運営（戦時中他に転用）に始まっている。**

現在の病院は昭和23年3月江田町外3ヶ村組合立国民健康保険共立病院として発足今日満59年の経過をたどっている。戦後病院の必要性を痛切に感じられた元城北製糸ＫＫの工場長堤一郎様（初代事務長）の幅広い社交性、経営手腕と努力により今日がある事忘れてはならない。

町立病院がある事により、町民の健康、医療に関する安心感は何事にも代え難く、休日であろうと、夜中であろうと対応してもらえる、この安心感は何事にも代え難く思います。自治体病院経営状況調査書によると繰越欠損の状況にあるが、県下20の自治体病院中、黒字経営は4病院にすぎない。町立病院だけでなく県下の8割は構造的、慢性的な赤字経営が続いている。

構造的赤字を心配する事も聞かれるが、幾多の苦難の道を乗り越え今日に至っている歴史の重みを受け止めて、今一度病院スタッフ、町執行部議会、町民一丸となり病院活性化への努力が必要ではないか、現状を踏まえての町長の見解を伺う。

答 病院に関して歴史的今日までの長い歩み、改めて聞いたところです。

病院開設以来59年の長い歴史があり、病院の活動は医療費の抑制、保健活動の推進による健康増進に繋がり保健・医療・福祉の連携の拠点として医療費の適正化・効率化を図り地域医療の拠点としての役割を担って来ており地域住民に大きく貢献しております。

今日の課題は医療費制度の改革による減収、医療報酬引き下げ、医師不足による減収は今日全国的な状況にあります。特に地方の中小病院は医師不足が非常に深刻になっているのが現状であるなか、今後、老健施設への転換、給食業務の民間委託等を検討しながら経費削減策を考える必要があると考えます。

また、専門的経営診断を行い今後どの様な方向に行くべきか部分的業務委託、公設民営等色々な方法があると思います。さらに内容を内部をどの様に意識改革するのか、19年度において総合的に分析をしてまいります。

病院の歴史を述べられた件「頑張れ」という激励にも私受け止めたところです。激励に対してしっかり応える努力をしてまいります。

病院は有って当然、空気みたいな存在との指摘、自分達の病院としての住民意識、これは大変大事な事、全くそう思います。

三加和地区にバスを廻しておりますが日々増えておりますが、三加和地区の住民の方々に関しても自分達の町立病院という意識が深まっているのだなと思いうれしく思っております。

学校統合問題と社会教育問題について

問 **学校統合問題をどの様に推進するか今後の対応方策について町長、教育長に伺う。また、社会教育の充実について合わせてお聞きしたい。**

答 **（町長）** 議会において昨年12月中間報告を受けたところであります。それを受けて執行部においては、教育委員会を中心に多くの意見を聴取しながら、ひとつひとつ今後の教育環境整備に取り組んでいきます。

学校は長い歴史があり、現在学んでいる子どもたちだけでなく地域における多くの住民の方々の理解も得る必要があります。慎重に早くという形のなかで努力していきます。

（教育長） 長い学校の歴史と、現在の子どもたちの状況を考え合わせ早急にしかも慎重に対処していく必要があります。

また、県立大学と包括協定を締結しておりますので、町外の方の意見を含めて審議会を設置し今年中に方向性を出す事で努力します。